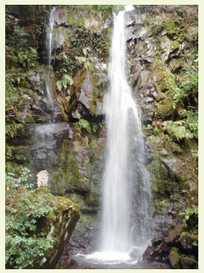
みどころいっぱい勝部の自然

●不動滝コース

①かちべ伝承館

かちべ伝承館は、平成10年（1998年）にオープンした、農村の生活体験を味わうことのできる施設です。横を流れる不動川の岸には公園が整備されており、ここを拠点に不動滝などの滝巡りや、周辺の自然を散策をすることができます。
（問）0857-87-0515／8時30分～17時15分／休館日：月曜日、年末年始（12/29～1/3）

②御滝山大善院 不動滝（一ノ滝）



御滝山大善院は、「田原谷のお不動さん」と呼ばれています。その奥の院が不動滝で、一の滝とも呼ばれています。ここでは、6月と8月の第1日曜に「湯三昧」、7月の第1日曜に「柴灯護摩」の行事が行われています。「湯三昧」は、護摩木によって大釜で沸かした熱湯を、笹の葉で身体に振りかけるもので、「柴灯護摩」は、祈願が書かれた護摩木を火にくべて、災厄を火によって焼き払う行事です。

③湯原滝（二ノ滝）

湯原滝は、約20mの高さから水が滝つぼに一気に流れ落ちる滝です。二の滝とも呼ばれています。水量が多くなると、二筋の滝となります。滝の周りの溶岩には、規則正しい割れ目（柱状節理）が見られます。

④妙円滝（三ノ滝）

妙円滝は、約20mの高さから岩の割れ目に沿って水が流れ落ちる滝です。三の滝とも呼ばれています。3つの滝の中では、岩肌に水模様を描く美しい滝で、滝を作る崖の角度や、岩の割れ方、水量などによって、滝の表情が異なることを実感させてくれます。

おすすめ：鉢伏山

鉢伏山は、湯梨浜町との境にある標高513. 9mの山です。勝部地域の山地をつくる岩石は、県中部の県境及び鉢伏山付近から日本海に向けて流れた溶岩だと考えられており、「鉢伏山板状安山岩」と呼ばれています（ジオコラム①参照）。鉢伏山の山頂には、テレビや無線のアンテナが立ち、展望台も整備されています。

●八葉寺コース

②採石場跡 安山岩の大露頭

かちべ伝承館の前にある大きな採石場跡です。この岩石は、鉢伏山板状安山岩と呼ばれる溶岩です。数百万年前の火山噴火によって、大量の溶岩が流れて当時の谷を埋めた後、溶岩の周辺が侵食されて谷になり、硬く侵食されにくい溶岩が丘状に残りました。採石された崖を見ると、谷を埋め尽くした溶岩の規模に圧倒されます。（ジオコラム①参照）
【注意】採石場内には立ち入り禁止。

③建山神社

2本の大きな杉の木が迎える171段の急な階段を上ると、この建山神社があります。608年に現在の地に勧請されたと伝えられています。この神社のある建山は、鷲峰山と大山の背比べの説話の中に登場する山です。（ジオコラム②参照）

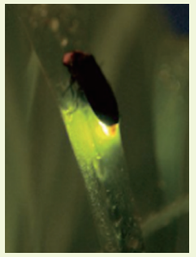
④子守神社

子守神社は、弘長2年（1262年）に勧請されたと伝えられ、明治元年（1868年）に現在の地に奉遷されました。高さ約30mもある溶岩の崖の岩窟には、拝殿が埋め込まれたように建てられ、崖の約20m上には、地区の人が紀州（和歌山県）の熊野大社から「分身」を授かって建立したと伝えられるミニ権現社があります。また、境内にある大イチョウと岩窟は、鳥取市の天然記念物に指定されています。

おすすめ：八葉寺の石垣

八葉寺川の谷筋をさかのぼり、子守神社を過ぎると、八葉寺の集落があります。この集落には、よく手入れがなされた大小さまざまな石を積み上げた石垣が数多く見られます。石垣に使われている石は、周辺の山地を作る鉢伏山板状安山岩です。複雑に組み合わさった石積みは、写真愛好家の被写体にもなっています。

おすすめ：八葉寺川のホタル



勝部川の支流の八葉寺川には、6月中旬～7月初旬頃になると天然のゲンジボタルが飛び交います。昔に比べて数は少なくなりましたが、鳥取市でも屈指の鑑賞スポットです。子守神社境内周辺は八葉寺ホタルの里公園となっています。写真：勝部地区探訪マップより

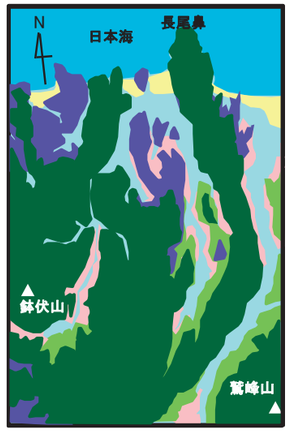
ジオコラム①

勝部地域の地形を作った火山活動

鳥取市西部から三朝町にかけての中国山地から日本海側にかけて、安山岩の溶岩が広く分布しています（右図の濃い緑色）。これは今から数百万年前に中国山地付近に存在した火山から流れ出た溶岩だと考えられています。溶岩は当時の谷を埋めながら流れ下りました。その後、長い時間をかけ、溶岩の周辺が侵食されて現在の谷になり、硬く侵食に強い溶岩は海抜200～300mのなだらかな台地状の地形として残りました。この台地の崖には多くの滝が見られます。また、勝部地域を含む鳥取市青谷町の安山岩溶岩は板状の割れ目（板状節理）が発達しているのが特徴で、鉢伏山付近に最も厚く分布するため「鉢伏山板状安山岩」と呼ばれます。

夏泊に見られる板状節理

夏泊に見られる板状節理



鳥取市西部青谷町付近の地質図
（参考：鳥取県水理地質図）

ジオコラム②

鷲峰山と大山の背比べ

鳥取市鹿野町の鷲峰山（920m）と鳥取県西部の大山（1729m）が背比べをしたという伝説がいくつも残っています。その中のひとつは次のようなお話しです。

全国の神様達が集う出雲の国の行事が終わった帰り道、鷲峰山と大山の神様が互いに自分の方が背が高いと言い争いになり、背比べをした結果、鷲峰山が勝ちました。負けた大山の神様は悔しがり、杓子で鷲峰山の頭をすくい取りました。これに鷲峰山の神様は大いに怒り、それに気づいた大山の神様が慌てて逃げようとした途端、杓子についていた土が落ち、鳥取市青谷町の建山になりました。さらに、鷲峰山の神様が「土はもうないのか」と怒鳴ったので、大山の神様は袖を振ってみせたところ、残っていた土がどさっと落ち北栄町の振袖山になりました。

鹿野町から見た鷲峰山

鉢伏山から見た大山

クイズの答え
① 左目がない。（左目のない竜神伝説）
② 樹齢約500年

制作：鳥取県、鳥取市、山陰海岸ジオパーク推進協議会